

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年二月度 入選句（投稿総数三千百十句・一般投句数四百五十五句）

選者 名和 永山

特選

信実 は こんな 色 かも 龍 の 玉 千葉県印旛郡 寺嶋 和江

季語は「龍の玉」で冬。晩秋から冬にかけて「龍の髭」の中で小さな実を付け、美しい青紫の色を見せる。とついで、皆さんは「信実の色は？」と聞かれたら何色と答えますか。その前に「信実」とは、真面目で偽りのない、正直なことであり、利害を離れた誠実な心と言う。「真実」の偽りや飾りのないほんとうのことだけでは足りないようです。利害を離れた誠実な色はどんな色でしょうか？「腹黒い」という言葉から、誠実でない色が「黒」に思えてしまいます。とすると「信実」は白や透明ということになるでしょうか。

さて、掲句の中「こんな色かも」と自分で問い、そして「龍の玉」を答えている。そのところにおもしろさがあります。信じる色は何であつても良いのでしようが、あの美しい輝きを「信実の色」であつても可笑しくはありません。蛇足ですが、龍の玉の皮を剥くと、中に透明な小さな実が入っています。そしてその実はよく弾むのです。作者はその透明な実を思ったのかも知れませんね。

時 かけて 一 輪 ほぐす 寒 牡丹 養老郡養老町 田中 秀草

季語は「寒牡丹」で冬。一般には牡丹は「夏」五月ごろに開花する。しかし「寒牡丹」は寒い冬に花を開かせることになる。寒牡丹は花を咲かせ、子孫を残すために寒い日であつてもゆつくり花を開かせる。そして、虫がいないために受粉は「風」まかせである。そのためには、花を開かせなければならぬ。「一輪ほぐす」の措辞が、その想いをうまく表現している。

私は、この句に「自分の想いをほぐす」ことまで想像した。人が生きる時、何かわだかまりを持つことは当然である。その「想い」をゆつくり時をかけてほぐす、そんな広い心を持ちたいと思う。

福は内だけで 鬼追ふ 我が家かな 兵庫県神戸市 紫 桔梗

季語は「福は内」で冬。詳しくは「豆まき」の傍題として使われる。
この句意は、皆さんにもお分かりであろう。普通なら「鬼は外」「福は内」と豆をまくのだけでも、「我が家」では、「福は内」と言うだけ。「ということ」は、『我が家には鬼はいない』ということでしょう。作者の家庭がいかに仕合わせであるかが想像できる句である。そうした「我が家」を強調する意味での終末の「かな」の切れ字の効果もうかがえる。

秀逸

歳時記に 葉挿みて 去年今年	安八郡神戸町	大槻	恭子
歩数計ゼロの まんまに 冬ごもり	大垣市	佐竹	余史美
悴みて 夫の言葉も 歪みけり	大垣市	樋口	絹子
山水の流れは 春の音となり	大垣市	田中	雅子
二ヶ月や 余白の多き カレンダー	大垣市	宮脇	和子
宝くじ 夢買ひ 占めて 山笑ふ	大垣市	高木	歌佐
露のたふきの ふ空家になりし家	栃木県那須塩原市垣内	孝雄	
とりあえず 御慶述べ あう夫婦かな	大垣市	平野	ヒサエ
和やかに 名乗り 大きく 初句会	大垣市	片山	洋紅
一とせを 悔いず 誇らず 除夜の燭	岐阜市	堀江	美州

入選

酒蔵を育む井水去年今年	もの音のさらに音生む霜夜かな	奥座敷三代揃い初写真	凍て月の影ながくして急く家路	初詣近くて遠い鳥居かな	深々と闇重くなる寒灯下	清流に糊搔落とす寒ざらし	ガラガラと鉄扉閉められ山眠る	長火鉢月日の重さ灰の色	あるがまま生きるも難し梅一輪
養老郡養老町	大垣市	大垣市	大垣市	大垣市	大垣市	不破郡垂井町	不破郡垂井町	不破郡垂井町	安八郡輪之内町
田中 紫香	日比野 友子	北村 陽子	安田 悦子	弓指 明美	鶴田 信子	富田 実郎	北村 廣美	大羽 志津子	野村 照子

入選

梅日和伽藍に光る葵紋	待春や遊漁券の発売所	啓蟄や常にぎつしり冷蔵庫	一水をまたぐ歩幅や日脚伸ぶ	さざ波に夕日とんがる二月かな	長い髪結い上げ和装春隣	謙遜をしようとどけらる寒鮎煮	伊吹山我が歩く道ついて来る	どんどやき瞳孔ひらく赤だるま	行間に心ほぐるる年賀状
大垣市	京都府京都市	東京都北区	大垣市	大垣市	大垣市	大垣市	大垣市	愛知県大府市	愛知県岡崎市
森川 きよ子	八田 弥須子	菱沼 多美子	佐藤 すみ子	北浦 典子	多和田 一徳	佐竹 露子	村西 芳夫	蟻馬 次朗	鈴木 正紘

選者吟

立つちしてははじめの一步春さ中

永山